



JIMTOF2012を終えて



今回目立ったのは、5軸加工や複合加工機といった工程集約に向けた製品と、パッケージ化や部品共有化を図り低価格化の提案の製品でした。

また、航空宇宙やエネルギー関連向けを狙った大型加工機の展示も多く見受けられました。

その中で弊社がおすすめしているメーカーをご紹介します

松浦機械製作所様では5軸制御マシニングセンタ「MAM72-35VPC32」を出展。多数のワークと工具を配備でき、かつ搬送や交換を自動化できるため無人化に向け生産革新を支える提案ができる加工機だと実感いたしました。またもう一つの目玉として、パッケージ化及び海外部品調達に取り組み大幅なコストダウンを実現した立形マシニングセンタVX-1000などが注目を集めていました。昨今の加工機に対する低価格化へのご要望と従来の松浦の特徴を損なわない高速高精度な加工機は、お客様のご要望を満たすことができる機械ではないかと思っております。

中村留精密工業様では、棒状ワークに対して任意の角度の斜め穴をあけられる旋盤ベースの複合加工機「NTJ-100」を展示、従来のタレットでは旋回動作ができなかった為あらかじめ角度を設けた工具保持器を使う必要がありましたが、タレットを旋回動作させることでワークに対して工具が斜めの角度をつけて回転できるような仕様になっていま

開発部 精機グループマネージャー
藤野 大介

した。複雑形状の加工でお困りのお客様におかれましては、ぜひご検討いただきたい加工機です。

ナガセインテグレックス様では、まず、ブースから遠目でも分かるその斬新なデザインに驚嘆しました。超精密加工の印象が強い同社ですが、今回はその極限を行くような加工機として、超精密平面研削盤「SGC-630 a」が発表されていました。これは周辺環境自律補正機能スマートサーモニクスとミットヨの測定器を搭載し、温度環境の変化の補正をしながら加工を行う超平面(鏡面)を創生する加工機です。メーカーからのメッセージとして、お客様がこの加工機を使って他社や他国との差別化を図っていただきたいとの強い思いを感じました。

不二越様ではエネルギー・インフラ分野における中大型歯車の加工工程を集約することで多品種少量生産への対応、設備コストの低減、工場の省スペース化を実現する「ギヤシェーブセンタ」を発表しました。従来、別の加工機で行っていた旋削・穴あけ加工を歯切り加工機に集約したマシンで、ワンチャックで加工できるため、都度行っていた芯出し作業が不要となり、安定した加工精度も確保できる優れた機械になっています。

そのほか、アマダ様では旋盤にミーリング加工をできるようにした複合加工機に、研削機能を持たせ大幅に段取り工数の削減を提案している「V8G」など興味深い加工機が各社発表されました。

弊社では、今回のJIMTOFで出展された各メーカー様の主な機種、特徴などを簡単にまとめた資料を作成しておりますので、ご興味があるお客様におかれましては、担当営業へお申し付けいただければと思います。

JIMTOF出展を振り返って

中国発のWORLD WIDE BRANDをプロデュース 中国プロジェクト

2年に1度開催される国内最大の工作機械見本市である、第26回国際工作機械見本市「JIMTOF2012」が11月1日より6日間にわたって東京ビッグサイトで開催されました。京二は今回で4回目の出展となりました。

過去の出展では、株洲工具・鄭州ダイヤモンドといった中国工具メーカーを前面に出しての展示でした。今回の出展は中国工具の取り扱いメーカーも増えてきた事もあり、京二が「削る」「磨く」「測る」をテーマとして、中国メーカーでお客様の加工工程をトータルでコーディネートできるという事を前面に出しての展示としました。



- 「削る」 株洲工具・鄭州ダイヤモンド・上海タイフン
- 「磨く」 SAILIホイール・BOLD
- 「測る」 INSIZE

上記メーカーの展示を行い、多くのお客様の反響を頂くことができました。特に反響が大きかったのは特殊超硬工具の上海タイフンとSAILIホイールの砥石、計測機器のINSIZE商品でした。

上海タイフンは特殊超硬工具のメーカーですが、今回日本へは初めてご紹介させていただきました。日本は特殊形状の工具が多い市場という事もあり多くのお客様の興味を引いていました。特殊エンドミル、ドリル、サイドカッター、ロー付け工具の展示品に来場者からは「このような複雑な工具にも対応できるくらいの技術を持っている事に驚いた」や「選択肢の中が今後広がる」「国内メーカーの撤退や値上げで困っていたんだ」との感想が多く聞かれました。



INSIZEはヨーロッパ資本により低コスト調達拠点として中国に設立された総合計測機器メーカーです。日本では計測分野のコストダウンは、国内メーカーが非常に強い市場であり、手を出しにくい分野とされています。そのような市場ではあるのですが、今回はデジタルノギス・デジタルマイクロメータ等のスモールツール、デジタル顕微鏡等の光学機器、ピンゲージ・ブロックゲージのゲージ類の展示をしました。お客様の多くは最初にINSIZEの説明をすると、「中国製ですか?」「精度的には大丈夫なの?」との感想が多かったのですが、ノギス・マイクロメータの実機を見て



頂き、更に手を触れてもらうとお客様からは「国内製と比較しても全く遜色ない」「使用する工程を考えれば十分使用可能である」との声が多く聞かれました。測定器のコストダウンは無理であるとのこれまでの概念を少しは変えることが出来たのではないかと考えています。

SAILI ホイールも今回、日本には初めてのご紹介でした。SAILIホイールはダイヤモンド砥石、cBN砥石、電着砥石を得意として海外メーカーのOEM製品も数多く手掛けている事もあり、世界標準品質を実施しているメーカーです。中国製の砥石というのはお客様の多くの方々にはあまり認識がなかったようで、展示品を見て「本当に中国製ですか？」との質問を多く受けました。特に工具研削盤用砥石や平面研削盤用砥石は注目を集めていました。



鄭州ダイヤは、全品がオーダーメイド対応のPCD、cBN工具の専門メーカーです。今回2度目の出展となりました。前回の出展とは違って、既にご採用されているお客様もあり、具体的な案件の商談や技術面での打合せがされていました。徐々にではありますが日本に浸透してきている事を感じる事ができました。また、これまで顔が見えなかったメーカーの方々とお客様を会わせる事ができた事も大きかったと思います。現在は自動車分野向けの工具が多いのですが航空機分野、医療分野等の他分野への足掛かりもつかめたのではないかと思います。

初めてご紹介をさせて頂いたメーカーを含めて

今回の展示会ではお客様から多くの反響を頂き、更に大きな手応えを得ることのできたものになったと思います。この反響、手応えを無駄にせず、次に実を結ぶよう今後の営業活動を展開していきたいと思っています。

次に今回の展示会全体を通して感じた事を下記に書かせて頂きたいと思っています。

1. 中国製の工具はもう珍しい商品ではなく、日本市場に浸透してきている事
2. 海外製の工具には価格だけではなく、同時に高品質もお客様は求めている事
3. お客様の考え方は日本製にこだわらない、使用できるものは海外製でもというように変化してきている事
4. 工具以外の中国製品への期待

日本のものづくりを取り巻く環境はものすごい早さで変化している事を感じました。今後中国に限らず台湾、韓国等の海外メーカーが日本に更に参入してくる事は間違いないでしょう。海外製工具の競争が激化することも予想されます。京二はそのような環境の中で更にメーカー・商品の提案を継続し、お客様の期待にお応えし、お役に立てるように頑張っていきます。

最後に今回のJIMTOF出展へご協力くださいました方々へ感謝申し上げます。

